

長野県短期大学創立 80 周年記念座談会祝辞  
「中国河北大学の国際協力と交流の現状」

Nagano Prefectural College 80th Anniversary Congratulatory Address  
"Hebei University's International Relations and Cooperation"

中国河北大学国際合作処処長 国際交流与教育学院院長 徐 建 中  
Xu Jian zhong,  
Director of Hebei University Office of International Cooperation and Exchange,  
Chairman of the College of International Education and Exchange

本日、貴学の創立80周年記念式典の日にあたり、河北大学国際合作処と国際交流教育学院を代表して、教職員、学生の皆様方に心よりお祝いを申し上げます。

先ほど、本校の概況、開設学科につきましてはすでに康書生副学長がご紹介しておりますので、ここでは河北大学の国際協力と交流の最近の概況を簡単にご紹介させていただきます。

近年、河北大学国際合作処と国際交流教育学院は、積極的に国際交流のルートを開拓して、大いに国外の知力を取り入れ、留学生教育の特色を際立たせております。また、国際的な中国語普及に積極的に加わり、大学の国際的影響力を拡大し、大学教育と研究を促進し、迅速に国内一流の大学を建設するという目標のために奮闘努力をしております。

国内一流の大学を作るという目標を達成するため、具体的に4点ほど申し上げたいと思います。

まず、1つ目は、国際交流ルートの積極的開拓と、教育サービスのさらなる向上であります。国際交流ルートの積極的な開拓については、河北大学はすでにアメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、フランス、ロシア、ウクライナ、カザフスタン、日本、韓国、モンゴル等40以上の国々の大学や教育機構と学術交流協議書及び備忘録98件を次々に調印しました。これらの協議あるいは備忘録にはすべて学術交流、共同研究、教員の相互派遣、学生の交換留学などの項目が含まれております。

2つ目は、国外の知力を引き入れ、外国籍教員、専門家が役割を発揮できるよう努めています。国際合作処は大学の発展計画に基づき、大いに海外の知力を導入して、外国籍教員の招聘人数を教育研究活動の必要に応じて年々増加させています。毎年平均40名余りの外国籍教員専門家を招聘しています。これらの先生は、アメリカ、イギリス、カナダ、オー

ストラリア、ニュージーランド、フランス、ロシア、日本、韓国、フィリピン等、数十カ国になります。40%以上の外国籍教員は高い職位あるいは博士学位を備えております。しかも外国籍教員が担当する活動は、すでに単純な外国語教育から一部専門の授業、あるいは共同研究へと広がっています。教育範囲は在学生全体に及んでいます。

3つ目は、大学教員の国外研修をおこなっております。国際合作処は大学の教育研究にサービスする意識を絶えず強めており、教員の国外研修のための条件を作り出しています。

教員の国外研修とは、国を超えた英語教育プロジェクトであり、河北大学では2003年から若手教員の国を超えた英語教育プロジェクトを実施しています。国際合作処はカナダ「北ブリティッシュコロンビア大学」、イギリス「スワンシ大学」と教員資格の英語教育協定を結びました。2008年までに大学はすでに100名余りの若い教員を選んでカナダ、イギリスに行かせて英語教育に参加させ、我が大学の二カ国語教育活動の進展を力強く推し進めてきました。我が校の特別予算を集中させ、若い教員を選んで海外へ外国語習得に派遣したのは、中国の大学のなかでは先駆的な取り組みでした。



先ほど、大学の教員に対していろいろ研修させる機会を作っていると申し上げましたが、四つ目として我が大学は、学生に対しても、「国外へ出る」ための機会づくりを行っています。河北大学は前後して国外40箇所余りの大学と学術交流協定を結んでおり、相互に学生を派遣する教育プロジェクトを展開しています。2004年からすでに150余名の学生を日本、韓国、カナダ、アメリカ、ロシアなどの国へ派遣し、交換学習を実施しています。我が校の学生の「国外へ出る」、すなわち国を跨いだ教育は、すでに我が校の学生教育の重要な構成部分となっています。国際合作処は交換する国と大学をさらに開拓し、交換留学生の比率を拡大しようとしています。同時に国外の友好大学と積極的に交流し、連携を強めて、我が大学の交換留学生の成績交換と単位互換認定作業を行っています。学生の国外学習プロジェクトを制度化し規範化していく予定です。

目標を達成するために、四点ほど申し上げましたが、これから留学生のために教育の質を重視している特色と、国際的な中国語の普及に積極的に参加していくための取り組みについてお話いたします。国際交流教育学院では以前から留学生に対して、教育の質を重視し、教育課程を合理的に設置し、「読み・書き・話す」を含んだ各種の授業の型を取り入れ、留学生の言語技能とコミュニケーション能力の養成を重視する教育指導方針を体现してきました。特に教育上優秀な成果をあげる教員を担当させ留学生にHSK補講授業を開設し、留学生に歓迎されています。

留学生に対する教育の質を重視するために、留学生の評価基準を厳格にし、出席、日常の試験と期末試験を有機的に結合させています。具体的な比率は、たとえば「出席20%、日常の試験30%、期末試験50%」としています。学院は教室での授業を重視するとともに、人を基本とし、学生を中心とする教育理念を提唱しています。課外活動も豊富で、多くの留学生が中国文化の理解を深め、中国語を運用する実際的能力を向上させることを目的としています。具体的には、一つは学期ごとに中国書画、太極拳、太極扇、料理、音楽、中国語朗読などの専修課程を開設しています。二つ目には留学生が参加する豊富で多彩な文化実践活動を組織しています、三つ目には

留学生に外国語専門の学生、大学院生が定期的に開講する中国語活動や、一對一の中国語補習授業を紹介しています。

多くの留学生が河北大学に対して深い親しみと愛情を持っています。たとえば、長野県の中国語研修生だった小口絵里子さんは、日本の新聞紙上で河北大学を紹介する記事を寄せています。また、『人民日報海外版』2007年7月30日付けの紙上には、河北大学の韓国人留学生、鄭芳実さんの作文「中国留学」が掲載され、国内外での我が校の影響を広げました。

また、海外中国語センターの設立と、国際的に中国語を普及させるために積極的に参加する取り組みを行っています。河北大学は国外大学との交流状況に基づいて、積極的に国際的な中国語普及に加わり、2006年と2007年はモンゴル国のイフザサク大学とロシアのホフベイジアル人文師範大学に海外中国語教育センターを設立し、あわせて定期的に両大学へ中国語教員を派遣し、中国語教材やマルチメディア資料を贈呈して、両校の中国語教育の発展に寄与しております。

現在、河北大学はモンゴルとロシアの2つの海外中国語センターで円滑に運営を行っております。毎年50名前後の中国語学生を募集し受け入れ、一年の中国語学習を経た後、大部分は引き続き河北大学に留学を続け、我が校の留学生募集の重要なルートとなっています。一番、多い留学生はモンゴルで、ロシア、韓国、日本の順になっています。

先ほど、一流大学を作るための目標について申し上げましたが、これからは、次の活動目標について申し上げたいと思います。

河北大学の総合設立プランに基づいて、目下、40余りある海外友好大学を基礎として、さらに協定を結ぶ大学数を60にまで達することをめざしております。さらに高いレベルの多くの外国籍教員を招いて、専門家の外国籍教員の比率を高め、招聘する外国籍教員の延べ人数が毎年度50人に達するようにします。我が校の教員の国外研修のために情報を提供し、条件を作り、さらに広汎に国際交流と教育合作プロジェクトを展開し、さらに優秀な学生を選んで国外に交換学習に派遣する計画を実施する所存です。

次の活動目標として、もう一つは、さらに中国語が世界に向かって歩み出すために、世界の人々に中

国言語文化に対する理解を増進してもらうために、私たちはモンゴル、ロシアの中国語センターをゆるぎない基礎として、日本、韓国、インドネシア等の国の友好大学で、さらに2～3箇所の中国語教育センターを設立しようとしています。ならびに国外の大学と連携して、孔子学院の創設を実現すべく奮闘し、中国と世界との友好の橋をかけるために貢献する所存です。

以上、いろいろ申し上げましたが、最後に、貴学の創立80周年記念式典のご成功をお祝いし、ならびに皆様方のご健康と理想の達成をお祈り致します。

みなさん、ありがとうございました。